

## ライフケアガーデン熱川 本館

症 例 概 要    利用者：80代    男性    要介護3

病名       ：慢性心不全、慢性腎不全、高度大動脈弁閉鎖不全症(2024年1月)

伊豆出身。15世紀から続く寺院の第41代目住職。2024年1月、高度大動脈弁閉鎖不全症により入院して以降認知機能低下とせん妄が出現。奥様が2022年7月より当施設に入居していたことからご家族より相談を受け、2024年2月当施設に奥様と同室での入居となった。

同年9月、慢性腎不全増悪により熱川温泉病院へ緊急入院。状態改善みられずお看取りとなる。最期は奥様の側がいいというご家族の意向により2週間後熱川温泉病院を退院し、当施設へ戻る。

跡取りとして同宗派の僧侶を養子に、その妻子も家族として迎え入れていたため、その養子への正式な住職交代式への参列を強く希望。看取りとなった当初は絶望視されていたが、各部署が専門分野において尽力し、ご入居者の希望であった「住職交代式」への参列を実現、ご入居者とご家族に輝きの一日を提供した事例。

### 内        容

当施設入居後も入居者さんは養子に法事の段取りや檀家について教授するといった住職の引継ぎを行い、その集大成となる住職交代式をご家族とともに心待ちにしていたましたが持病の悪化によりお看取りとなります。

BUN 118.7、CPK 418、クレアチニン 6.45 と深刻な検査結果にご家族は肩を落とし、声掛けに弱々しく頷く姿を見て式典の参列は絶望的だと諦めていました。

職員は入居者さんとご家族の住職交代式への思いに応えられないか、各専門職が入居者さんの状態安定のため尽力しました。看護職員は熱川温泉病院と密接に連携し日々の体調を細やかに管理、介護職員は幸せホルモンを意識した声掛けや介助を続け持病に苦しむ入居者さんの心を支え、理学療法士は体調を見極めながら無理のない範囲でリハビリを実施しました。各部署の積み重ねによって入居者さんの体調は徐々に安定して表情にも活気が戻り、式典参列が可能になるまで状態が落ち着くとご家族は安堵の表情を浮かべ大変喜ばれました。

そして、式典が滞りなく遂行できるよう事務職員はご家族と当日の細かなスケジュールを調整、同伴する介護職員は事前にご自宅を訪れ当日の動線をシミュレーションする等、周到的な準備を重ねました。

奥様とともに当施設を出発した入居者さんは来賓の方々に迎えられ、般若心経が響く荘厳な式典へ臨まれました。その姿は病床に伏していた弱々しさを微塵も感じさせない堂々たる威厳に満ちており、お孫さんには表情を和らげ優しく手を振り、旧友の僧侶とは「会えてよかった」「ありがとう」と笑い合い固い握手を交わされていました。

次世代へその責務を引継ぎ役目を果たした入居者さんはご家族とともに穏やかな時間を過ごし、職員は入居者さんの苦しみが和らぎ幸福を感じることができるよう寄り添い続けてまいりました。そして2025年1月、ご家族に見守られながら安らかに永眠されました。遺影には住職交代式で撮影した写真が用いられ、ご家族からは「御前様（入居者さん）を最期まで親身に看て頂きありがとうございました」とお礼の言葉を頂戴しました。

絶望的だった式典への参列を諦めず各部署が尽力し、入居者さんにご家族に住職交代式という輝きの一日を提供することができた今回の事例を、キラキラ介護賞として推薦します。